

次世代の日本を担う子どもたちの「文章力」を高めたい

— 日本語検定を活用して「文章力」に欠かせない「日本語力」を鍛える —

日本語添削技術研究所株式会社

◆日本語添削技術研究所とは

日本語添削技術研究所は、児童・生徒の文章力を高めることを目的として設立されました。以来、私たちは日本語について研究し、作文・小論文の添削指導にあたっています。具体的には、小学生から高校生までを対象にした下記のような添削指導を行っています。

「作文添削指導」…… 基礎的な文章力を鍛えるための200字作文から、公立中高一貫校をはじめとする中・高・大学入試対策作文まで、多種多様な課題に取り組みます。

「要約添削指導」…… 文章の読解力と要約力が身につきます。

「小論文添削指導」…… 高校・大学入試に直結した課題に取り組みます。論理的な思考力が養われます。

「記述添削指導」…… 新共通テストに対応できる読解力、および記述力を高められます。

◆ことばに対する危機感

「グローバル化」「情報化」が進み、大きく時代が変化するなかで、求められる「日本語力」の水準は日々上がっています。しかし、近年、各世代に広がる「言語の理解力」と「表現力」の低下、つまり「日本語力」の低下がしきりに叫ばれています。とりわけ、若年層の「日本語力」低下が問題視されており、いわゆる「ことばの危機」の時代が訪れているのだと考えられています。そのことは、私たちも日頃、作文を指導していて強く感じます。

たとえば「見れる」などの「ら」抜き言葉、「読んでる」などの「い」抜き言葉、「～じゃない（～ではない、の意）」といった話し言葉が散見されます。これは、書き言葉で文章を書くことに慣れていないことが一つの要因として考えられます。

さらに課題を読み取れず、問いに正しく答えられない生徒が増えてきており、「文章力」以前に基礎的な「日本語力」が低下していることを痛感しています。

そのような状況のなかで、2021年に現行のセンター試験が廃止され、新しい共通テストが実施されます。新しいテストでは、「知識・技能を活用して、自らの課題を発見し、その解決に向けて探求する能力」や「成果などを表現するために必要な思考力・判断力・表現力」を中心に評価されます。国語に関しては、次のような4つの「力」が問われることとなります。

「複数の資料や文章の内容を的確に読み取る力」

「必要に応じて要約や詳述する力」

「論理の構成や展開を工夫する力」

「論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる力」

これからの日本を担う人材には、こうした高い「文章力」が求められることになり、新共通テストが「ことばの危機」の歯止めになることが期待されています。

◆「文章力」を磨くのに「日本語力」が必須

「文章力」を磨くためには、根底にある「日本語力」を磨かなければなりません。「日本語力」を磨くうえで、「日本語検定」に向けての学習は大いに役立ちます。日本語検定の試験には「敬語」「文法」「語彙」「言葉の意味」「表記」「漢字」の6領域からバランス良く出題され、日本語の使い方の幅広い領域を網羅できているのが特徴です。これらを学習して、日本語を正しく使うことで、2021年の共通テストでも重要視される「表現力」の基礎も身につきます。

さらに重要な領域があります。それは「思考力・判断力」につながる総合問題です。グラフを見て内容を読み取る問題や、長い文章の中の空欄を補充する問題が出題されており、総合問題に向けて学習することで、「日本語力」はより高まります。

◆小学生のうちから「日本語力」を鍛える

日本語検定には、小学2年生レベルから社会人上級レベルまで、学習度に合わせて7つの級が設定されています。そのうち7級から4級では小学生から中学生レベルの問題が出題されます。つまり日本語検定に挑戦することで、小学生のうちから「日本語力」を鍛えることができるのです。「日本語力」が向上すれば、国語以外の学習もより容易になることは間違いありません。

また、3級から1級では高校生から社会人レベルの問題が出題されます。「日本語力」の向上はもちろんのこと、「敬語」の分野を学習することで、社会人としての基礎力は大いに向上します。このように「日本語検定」は生涯に渡って有用な検定試験なのです。

◆「文章力」が高まると「表現力」も高まる

「日本語力」とともに「文章力」が向上すれば、自分が言いたいことも正しく表現できるようになり、相手が話していることへの理解も深まります。つまり、他者とのコミュニケーションはより円滑になります。

文章の読み方やまとめ方、意見の表現方法は、もって生まれたセンスで決まるものではありません。すべて「学び」を通して得られるものです。自分の書いた文章を第三者から誠実かつ的確に批評をもらうことが、「文章力」を高めるうえで一番の近道なのです。

弊社の全添削員は、基礎的な「日本語力」を身につけるため、日本語検定3級の取得を義務付けられており、さらに上の級を目指す者も少なくありません。たしかに「日本語力」を備えた添削員から作文指導を受けることで、子どもたちの「文章力」は格段に向上します。



執筆：中村友美取締役

お問い合わせ先

日本語添削技術研究所株式会社

〒244-0805 横浜市戸塚区川上町 90-6

東戸塚ウエストビル4階

Tel : 045-410-8008 Fax : 045-410-8012

Mail : info@tengiken.co.jp